

# 令和元年度 自己評価・自己点検

## 1. 教育理念・教育目標

<p>《教育理念》</p> <p>一人ひとりの幼児が、夫々の発達課題に則して、自己の能力を十分に生かし、価値のある人生を送ることができるように、神を敬い、他の人々と親しみ合い、身近な自然に対する豊かな感性を磨くよう、指導と援助を与えて、幼児の健全な園生活を図る</p> <p>《教育目標》</p> <p>明るく逞しく、心豊かで、調和のとれた円満な人間性の基礎を育む</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

園の教育理念・教育方針の理解	○園の創立理念・建学の精神にあるキリスト教理念を理解している	86→91→82
	○カトリック園としての教育方針に共感している	100→100→94
	○園の方針、園長の考えについて園長や教職員と話し合っている	83→82→82
	○園の目指す幼児の姿を具体的にイメージできる	86→79→76
	○教育目標が現代社会の要請や必要に応える内容となるよう努力している	72→67→67
幼稚園教育要領の理解	○幼稚園教育要領を理解し、生かしている	64→67→61
	○幼稚園教育要領について、園長や教職員と話し合っている	67→73→58
	○幼稚園教育要領について、幼児の姿や環境の構成、教師のかかわりなど具体的な事例を想起できる	72→64→67

## 2. 年間目標

<p>年少「園生活に慣れ、基本的な生活習慣を身につけ、友だちと楽しく遊ぶ」</p> <p>年中「遊びのなかで自分の思いや考えを出しながら自己表現する」</p> <p>年長「自分で考え、自ら正しいことを選択して行動する」</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 3. 学級経営のためのクラス別自己点検・自己評価

評 価 項 目	達成率 (%)
① 子どものことについて常に教師間で話し合い、クラス・学年の枠を超えて情報を共有し、クラスの出来事や保護者からの様々な要望、意見については園長や主任、学年主任等に報告、連絡、相談をしているか。	81→88→82
② 子どもの健康で安全な生活を保障するために、施設・設備等の安全点検・衛生管理を定期的また随時行い取り組んでいるか。	81→70→76
③ 一人ひとりが神に愛されている意識を育て、家庭の事情・国籍・能力などでの差別を植えつけないような配慮がなされているか。	86→91→88
④ 一人ひとりの子どもが、友だちとふれあい、お互いの良さを認め、安定感を持って人間関係が育つような保育がなされているか。	81→76→76
⑤ 子どもや保護者との対応には公平さを欠かないようにし、一人ひとりの子どもの内面をより深く理解するように努めているか。	89→82→79
⑥ 絵本や物語などに親しませ、想像力やことばに対する感覚を大切に育てているか。	83→79→76
⑦ 教師が各々の得意分野の能力を生かし、その育成につとめ、教師間の良さを生かし合って信頼と協力が築かれているか。	86→82→73
⑧ 明るく爽やかに挨拶をこころがけ、正しい日本語・ていねいなことばで語りかけ、相手の話も耳を傾け、最後までしっかりと聞いているか。	78→79→76
⑨ 研修会には自己課題を持って、事前にその内容を確認したり、自分なりの考えをまとめ、保育に生かせるような成果を出しているか。	67→64→67
⑩ 保育の専門知識や技能のほかに、趣味や読書・ボランティア活動等、社会的な環境にも目を向け、人間性の幅を広げる努力をしているか。	61→61→61

#### 4. 重点的に取り組む項目の達成及び取組状況<年少児>

##### 《重点目標》

子どもたちの育ちを分かち合い、喜びを共有しあえるなかまづくりをする

評価項目	達成度(%)
① 一人ひとりが安定感を持ち、友だちと協力したり、思いやったり、助け合 って生活できるようにしている	72→73→73
② 一人ひとりの幼児の思いを把握して寄り添いながらかかわっている	83→73→79
③ 日々の保育の記録をとり、自ら検討するとともに教師間で話し合い、次の 計画に生かしている	72→79→76
④ 絵本や物語を使って、想像力やことばに対する感覚を育てている	83→79→79
⑤ 幼児のささやかな成長が理解できて、それを喜ぶことができる	97→91→94
⑥ 一人ひとりの幼児をよく観察するように心がけている	78→79→82
⑦ 幼児の年齢に応じたわかりやすく聞き取りやすい語りかけをしている	75→79→79
⑧ 障害のある幼児もともに生活する保育環境を用意している	83→85→82
⑨ 自分の保育と計画の評価・反省を行っている	72→73→79

##### ○取り組み状況

・子どもたちのなかま意識が芽生えて、2・3人で遊ぶことができるような電車を用意し、小さな集団遊びができる工夫がされており、友だちとのかかわりが増えていっている。

・活動の重点箇所や省いてはいけない工程等、統一しておかなければならない部分について、共通理解ができていなかったようだ。

・支援の必要な子どもへの対応は心がけて意識できていたものの、他の子どもへの対応がおろそかになりがちだったように思う。広い視野でクラスを見ていけるように、意識と資質を高めていきたい。

・教師間で連携できるよう、子どものようすについて積極的に話題にしたり、困ったときは助け合ったりすることができた。個性のある子どもたちを、多数の教師の目線で感じたことを話し合えたことで、課題が見えてくることもあった。

・支援の必要な子どもには個々に適切な図形や標識を利用し、自らが気が付くようにしたり、心の安定を図るように努力している。

5. 重点的に取り組む項目の達成及び取組状況<年中児>

《重点目標》

さまざまな経験をとおして人間関係を育めるように配慮する

評価項目	達成度 (%)
① 幼児の発達にふさわしい遊びや生活の形態を工夫している	83→91→85
② 生活や遊びのなかでルールを守り、楽しく活動できるようにする	81→82→85
③ けがや事故には特に気をつけ、年齢に応じた適切な環境構成やことばがけを行っている	75→64→64
④ 幼児の話をよく聞いたり、ことばにならない思いやサインを受け止めるようにしている	83→79→79
⑤ 幼児の姿を多面的にとらえることができる	69→70→67
⑥ 幼児一人ひとりの良さを認めるようにしている	86→94→88
⑦ 幼児のことについて常に教師同士で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有している	81→79→91
⑧ 幼児との信頼関係が成立するよう努めている	92→88→79
⑨ 幼児のささやかな成長が理解できて、それを喜ぶことができる	89→91→94
⑩ よりよい教師をめざすために、自身の保育を反省、評価している	72→64→67

○取り組み状況

・子どもたちの育ちについて教師がしっかりと話し合い、けじめのある生活ができるように静と動を意識して活動を考えることができた。

・集団遊びを取り入れ、ルールを守ることで待つことを意識したり、友だちの活動を見ながら自分の立ち位置を考えたりすることで、クラスの一員として自覚が持てるようになった。

・子どもたちの育ちについて話し合う教師の姿があった。子どもたちの興味や関心を持っていることを理解し、豊かな経験を積んでほしいという願いが、郵便ごっこ、手作り玩具、戸外での運動遊びなどの保育内容につながっていた。

## 6. 重点的に取り組む項目の達成及び取組状況<年長児>

### 《重点目標》

共通の目的に向かって考えを出し合い、達成感や充実感を味わえるよう働きかける

評価項目	達成度 (%)
① 神さまの配慮や恵みを伝え、感謝する心を育てようとしている	89→85→88
② 幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間の構成をしている	89→88→91
③ 個人の発達の特長、発達の課題に応じて指導している	69→73→79
④ 一人ひとりが安定感を持ち、友だちと協力したり、思いやったり、助け合って生活できるようにしている	81→76→73
⑤ 絵本や物語を使って、想像力やことばに対する感覚を育てている	89→85→85
⑥ 幼児のささやかな成長が理解できて、それを喜ぶことができる	92→91→91
⑦ 幼児の姿を多面的にとらえることができる	75→76→82
⑧ 善悪の判断、いたわり、思いやりなどの道徳性を培ううえでもモデルとなっている	81→82→79
⑨ 幼児が自ら考えたり工夫したりできるような見守り方をしている	83→85→85

### ○取り組み状況

・自ら考えて活動できるように、子どもたちの様子を温かく見守っている教師の姿や、活動を促す提示物の工夫などがあり、そのなかで友だちと関わりながら生活している子どもたちを見て、成長を感じた。

・行事を重ね、子どもたち一人ひとりの責任感ややる気、自信が育っていた。

・廃材を利用して、友だちと一緒に〇〇を作ろうと、目的に向かって役割分担しながら、計画的に仕あげていく時間はとても充実していた。思考力、想像力、表現力、また、友だちと折り合いをつけていくことが学べていた。

・卒園式の練習やお別れ会、卒園に向けての身の回りの整理をしていくなかで、新しい環境への期待感を高めたり、不安な気持ちによりそったり、一人ひとりにていねいに向き合い、落ち着いて残りの日々を過ごせるようにしていた。

・最高学年としてはじめある行動、生活ができるように、よく声をかけていた。

・なわとびの練習や音楽会の練習をとおして、継続する大切さやあきらめずに挑戦する気持ちを声掛けや態度で示し、しっかり認めることで心の成長にもつなげられていた。

## 7. 今後の課題

### <年少組>

- ・園生活を送るなかで、子どもたちが互いの良いところを認め合い、新しい人間関係を築いていくとともに、身の回りのことは自分で行い、けじめのある生活をする。そのために、教師が一人ひとりの良いところを見つけ、広めたり、静と動を意識したメリハリのある保育を考えたりしていく。
- ・目に見えにくい基本的な習慣（静止直立、前に合わせて歩く、偏食を減らす、はさみやのりの使い方など）を身につけておくことが大切だと思う。
- ・支援の必要な子どもだけでなく、すべての子どもが基本的な生活習慣を身につけられるように、引き続き、丁寧に根気強く援助して行ってほしい。
- ・特別な支援が必要な子どもに配慮していくために、園全体で個別の指導計画を考え、医療機関や専門の機関、保護者を支えて支援していく必要がある。

### <年中組>

- ・行事においては前もって下準備の保育の必要性を強く感じる。
- ・例年より子どもの人数が少なく、教師の数は多く、目が行き届きすぎて、声をかけすぎて失敗やトラブルを経験することが少なかったように思う。次年度は教師も一歩待って、子どもたちで考え行動する機会を取るよう工夫できれば、なおよいと思う。
- ・他学年との交流の機会が少ないように思うので、学年を越えての活動を意識的にすることで、次年度にもつなげていけるのではないかと思う。

### <年長組>

- ・年間をとおしてたくさんの行事があり、練習に時間がかかるので、活動の内容や時間配分等も考え、無理なく楽しめるような援助が必要である。しかし行事が多いが、一つひとつを乗り越えた達成感をしっかりと味わい、成長していつている姿もおおいに認めていきたい。
- ・園の活動に協力的な保護者が多く、ピアニカの練習や台詞覚えもとてもスムーズだった。特に3学期は行事の急な変更も多かったが、子ども・保護者・教師間の共通理解が図られ、大きな混乱が起きることもなく修了を迎えられた。互いの信頼関係をしっかり気づくことが大切である。

### <全体>

- ・報告・連絡・相談ができていないことがあったので、改善を望む
- ・時間的感覚の違う子どもたちの温度差をどう縮めていくかは大きな課題であると思う。
- ・園内研修で他のクラスの保育に触れることができ、学ぶことが多かった。指導案の書き方や質疑応答の仕方についても、引き続き習得していきたい。

- ・クラス経営が難しくなったり、悩みが発生したりした時に、早めに相談でき改善していけるように、教師間の風通しを常によくしておきたい。
- ・教材や玩具・絵本など、必要だと思ったものを、もっと積極的に申請すべきである。